

『ツール・ド・九州』開催による経済波及効果

【要旨】

- ・ ツール・ド・九州は、九州の経済団体トップと各県知事で構成される九州地域戦略会議において開催が検討されてきた大会であり、UCI(Union Cycliste Internationale 国際自転車競技連合)の認定を受けた国際サイクルロードレースである。
- ・ 初開催となる今回は 2023 年 10 月 6 日～9 日の 4 日間に渡って行われ、ステージは福岡県・熊本県・大分県の 3 県、全走行距離が 400km を超えるロングライド・レースとなる。
- ・ (株)日本政策投資銀行では、ツール・ド・九州を単なるスポーツイベントとしてではなく、官民が一体となった地域活性化の取り組みと捉え、「マイナビ ツール・ド・九州2023」の経済波及効果を測定することを通じて、今後の継続的な開催を支援したいと考えている。
- ・ 経済波及効果について試算をしたところ、「マイナビ ツール・ド・九州2023」の開催による経済波及効果が約 29 億 6,500 万円、ディスカバー九州の実施による経済波及効果が約 1 億 1,400 万円となり、総計で約 30 億 7,900 万円の経済波及効果になるとの結果が出た。
- ・ ツール・ド・九州は、日本最大級のサイクルロードレースになることが予想される。
- ・ 経済波及効果を積み増すためには、知名度向上や消費単価の引き上げの他、インバウンド対応を含めた、付加価値の高いサイクルツーリズム商品の造成と、それを受け入れるためのガイド人材の養成が鍵になると考えられる。
- ・ ツール・ド・九州の開催というチャンスを、九州地域全体で活かしていくことが重要となる。

(九州支店 企画調査課)

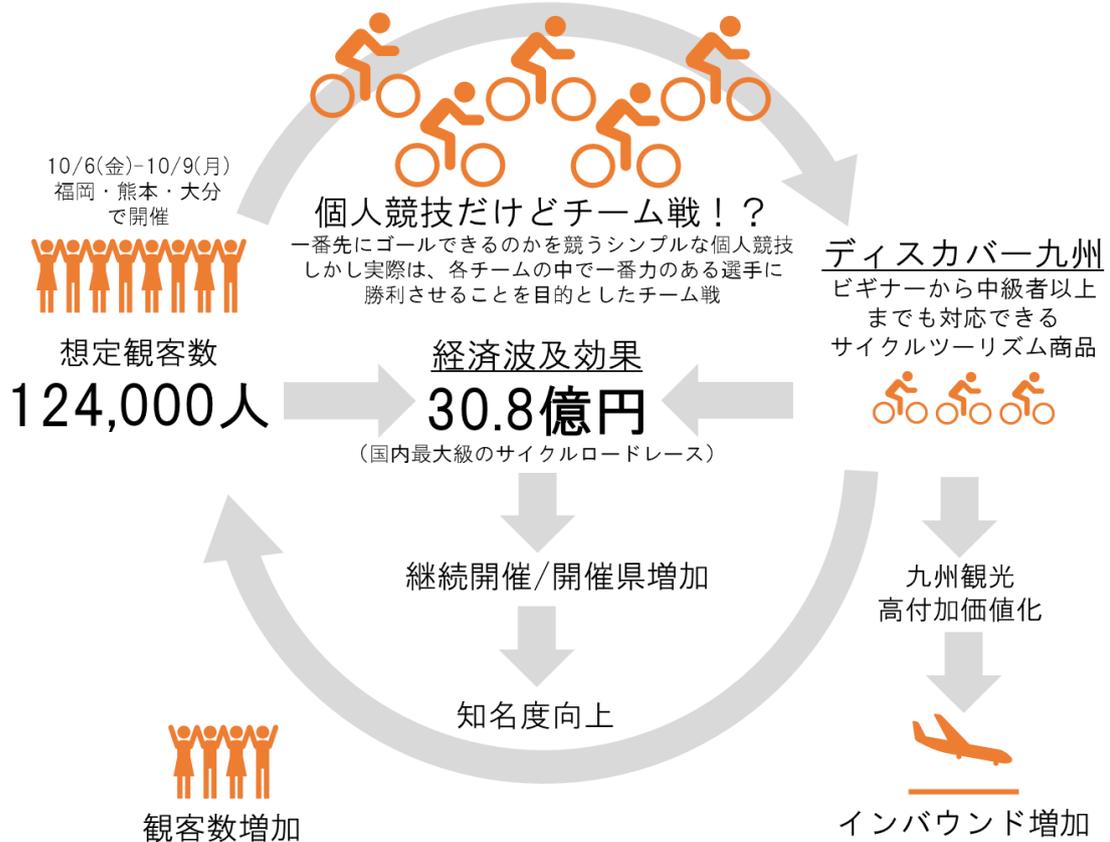
2023 年 7 月

株式会社日本政策投資銀行 九州支店

(協力:株式会社日本経済研究所)

マイナビ ツール・ド・九州2023

一般公道400km超を駆け抜けるサイクルロードレース



目次

1. はじめに	1
2. マイナビ ツール・ド・九州2023の概要	2
3. 経済波及効果算定のための前提条件① 類似事例の概要	4
(1) ジャパンカップサイクルロードレースの概要	4
(2) ジャパンカップサイクルロードレースの観戦者に関する分析	5
4. 経済波及効果算定のための前提条件② マイナビ ツール・ド・九州2023の開催条件整理...	9
(1) 関心層の試算	9
(2) 観戦者等による消費額の検討	12
5. マイナビ ツール・ド・九州2023 経済波及効果の検討	13
(1) 最終需要	13
(2) 経済波及効果	15
6. ディスカバー九州の概要	16
(1) 商品造成の背景	16
(2) 商品概要	16
(3) 参加者による消費額の検討	19
7. ディスカバー九州 経済波及効果の検討	20
(1) 最終需要	20
(2) 経済波及効果	20
8. 経済波及効果まとめ	21
9. おわりに	22

1. はじめに

2023 年の九州では、複数の大型スポーツイベントの開催が予定されている。その1つが「マイナビ ツール・ド・九州2023」である。

「マイナビ ツール・ド・九州2023」は、国際自転車競技連合(UCI)の認定を受けた国際サイクルロードレースである。世界トップレベルに位置するチームの参加が可能となる「UCI コンチネンタルサーキットアジアツアー クラス 1」の認定を受けたレースとなったため、九州における魅力的なレースの観戦機会となることが期待されている。

初回は、2023 年 10 月 6 日～9 日に、福岡県・熊本県・大分県を舞台としてレースが開催される。その後、毎年1回の開催が予定されている。将来的には、九州各県を舞台とした国際的なロードレースに成長させていきたいと考えられている。

また、ツール・ド・九州は、九州の官民が一体となって推進するイベントである。ツール・ド・フランスが、世界中から観光客を集める一大イベントであるように、スポーツ振興という側面のみならず、地域観光振興、地域経済振興の観点からも、誰もが知る九州の主要イベントの一つになっていくことが目指されている。

本稿では、このように地域からの期待が強いイベントである、ツール・ド・九州の開催による地域への経済波及効果を測定している。具体的には、レースの開催が予定されている①小倉城クリテリウム(注:1 周 1～3km のコースを周回して順位を競うレース)、②福岡ステージ、③熊本阿蘇ステージ、④大分ステージに関する経済波及効果と、ツール・ド・九州の開催に合わせて販売されるサイクルツアー旅行商品「ディスカバー九州」の経済波及効果を計測している。

(マイナビ ツール・ド・九州2023ポスター)



(一般社団法人ツール・ド・九州より許諾を得て転載)

2. マイナビ ツール・ド・九州2023の概要

「マイナビ ツール・ド・九州2023」は、九州の経済団体トップと各県知事で構成される九州地域戦略会議において開催が検討されてきた大会であり、UCI(Union Cycliste Internationale 国際自転車競技連合)の認定を受けた国際サイクルロードレースである。初開催となる今回は 2023 年 10 月に 4 日間に渡って行われ、ステージは福岡県・熊本県・大分県の 3 県、その全走行距離は 400km を超えるロングライド・レースとなる。

図表 1. マイナビ ツール・ド・九州2023開催概要

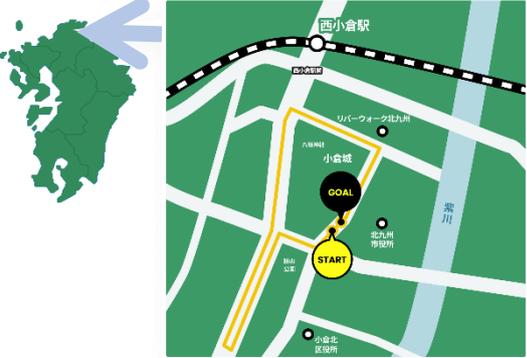
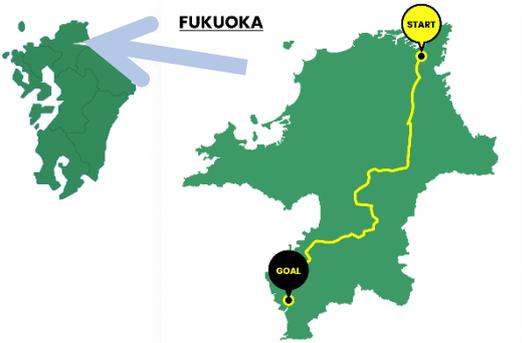
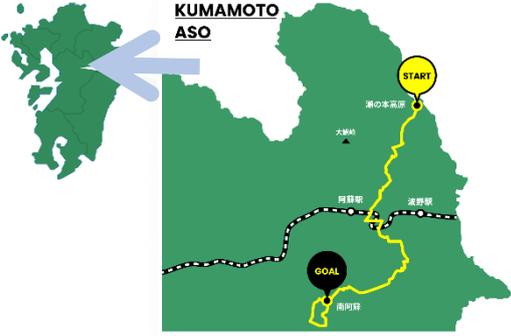
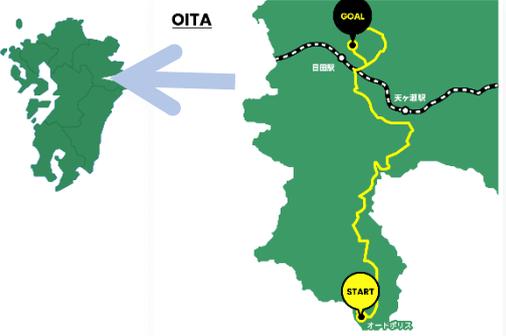
大会名称	マイナビ ツール・ド・九州2023
主催	ツール・ド・九州 2023 実行委員会 一般社団法人ツール・ド・九州
開催地	福岡県、熊本県、大分県
レース形式	転戦型ステージレース(ロード)及び クリテリウム(小周回サーキットレース)
レースカテゴリ	UCI アジアツアー2.1(ステージレース クラス1)
開催期間	2023 年 10 月 6 日(金)～10 月 9 日(月) ○エキシビジョンレース:クリテリウム 2023 年 10 月 6 日(金) 北九州市内(小倉) ○ロードレース:UCI アジアツアー2.1(ステージレース クラス1) 2023 年 10 月 7 日(土) 福岡県内 2023 年 10 月 8 日(日) 熊本県内 2023 年 10 月 9 日(月) 大分県内

出所)マイナビ ツール・ド・九州2023WEB ページ、ツール・ド・九州 2023 実行委員会資料より作成

図表 2. 大会日程

日時	場所	走行区間	距離
2023 年 10 月 6 日(金)	北九州市内 (小倉城クリテリウム)	小倉市	約 45km
2023 年 10 月 7 日(土)	福岡県内 (福岡ステージ)	北九州市～大牟田市	約 145km
2023 年 10 月 8 日(日)	熊本県内 (熊本阿蘇ステージ)	南小国町～南阿蘇市	約 106km
2023 年 10 月 9 日(月)	大分県 (大分ステージ)	日田市～日田市	約 135km

図表 3. コース概要

コース	特徴
<p>小倉城クリテリウム</p>	<p>小倉城周辺の小周回コース。 市街地に設定された短いコースを何周も回り、順位を競う。</p>  <p><small>※各コースについては、今後の交通規制や、道路工事などの状況により、変更になる可能性があります。</small></p>
<p>福岡ステージ</p>	<p>県を広く縦断する長距離ライン(直線型)レース。 競輪発祥の地・北九州から豪雨災害の被災地をつなぎ、世界遺産の街・大牟田に向かうアップダウンに富んだコース。</p>  <p><small>※各コースについては、今後の交通規制や、道路工事などの状況により、変更になる可能性があります。</small></p>
<p>熊本阿蘇ステージ</p>	<p>阿蘇五岳等、九州の大自然が特徴のレース。 北部から南阿蘇に抜け、アップダウンのある周回コースを経てフィニッシュ。</p>  <p><small>※各コースについては、今後の交通規制や、道路工事などの状況により、変更になる可能性があります。</small></p>
<p>大分ステージ</p>	<p>標高差の大きなコースを下る。 日田市中心部の周回コースでの高速スプリントも見どころ。</p>  <p><small>※各コースについては、今後の交通規制や、道路工事などの状況により、変更になる可能性があります。</small></p>

出所) 画像はマイナビ ツール・ド・九州2023WEB ページより許諾を得て転載

3. 経済波及効果算定のための前提条件① 類似事例の概要

(1) ジャパンカップサイクルロードレースの概要

ツール・ド・九州と類似の国内自転車ロードレースを対象とした経済波及効果の事例として、ジャパンカップサイクルロードレースについて概観する。

ジャパンカップサイクルロードレースは、ツール・ド・九州と同様の UCI 公認レースである。1992 年の第 1 回から、毎年、宇都宮市で開催されている。

コロナ前最後の開催であった 2019 年(10 月 18 日(金)～20 日(日))は、3 日間で 14 万人を集客した。うちレースの総観客数は 13 万 2,000 人(うちクリテリウム 5 万人)で、イベント等の集客が 8,500 人となっている。

レースの開催に加え、これら観客等による消費効果を合わせた経済波及効果は 28 億 1,000 万円と推計されている¹⁾。

図表 4. 2019 年 ジャパンカップサイクルロードレース 開催概要

日程	レース名 *優勝者〔氏名/国籍:チーム名等〕	場 所	来場者数 (前年実績)	参加選手数等
10 月 18 日 (金)	チームプレゼンテーション	オリオン スクエア	4,500 人 (5,000 人)	132 人 /22 チーム
10 月 19 日 (土)	ジャパンカップアマチュアレース (オープニングフリーラン・チャレンジレース・オープンレース)	森林公園	4,000 人 (4,500 人)	587 人 (3 カテゴリー計)
	第4回ジャパンカップホープフルクリテリウム *〔竹村虎太郎/日本:福井県立科学技術高校〕	大通り (3 周 6.75 km)	50,000 人 (50,000 人)	36 人/14 校
	ジャパンカップウィメンズクリテリウム 【新規】 *〔レイチェル・ニーラン/オーストラリア:ハイアンビション・ウィメン〕	大通り (3 周 6.75 km)		18 人
	ガールズケイリンスペシャルレース *〔南円佳/日本:鹿児島 116 期〕	大通り (1 周 2.25 km)		7 人
	ジャパンカップクリテリウム(UCI公認競技) *〔エドワード・トゥーンズ/ベルギー:トレック・セガフレード〕	大通り (15 周 33.75 km)		119 人 ^注 /22 チーム
10 月 20 日 (日)	ジャパンカップサイクルロードレース (UCI公認競技アジアツアー「オークラス」) *〔バウケ・モレマ/オランダ:トレック・セガフレード〕	森林公園 (14 周 144.2 km)		82,000 人 (82,000 人)

^{注)} 集団落車後の再スタート時の人数。当初スタート時は 126 人/22 チーム

出所) 宇都宮市「2019 ジャパンカップサイクルロードレース」の開催結果概要について」より作成

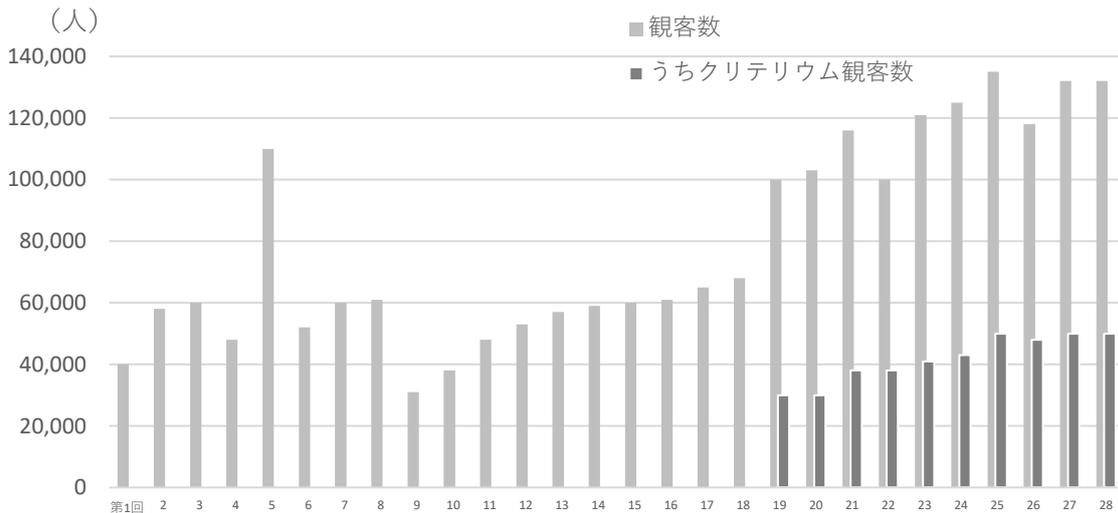
¹⁾ 宇都宮市「2019 ジャパンカップサイクルロードレース」の開催結果概要について」

(2) ジャパンカップサイクルロードレースの観戦者に関する分析

観戦者数は2年目以降、初年度の1.5倍程度で推移した後、クリテリウムが始まった第19回大会(2010年)で、再度、大きく増加した。

また、オープニングイベントも安定した集客数を確保している。

図表 5. ジャパンカップサイクルロードレース 集客数の推移

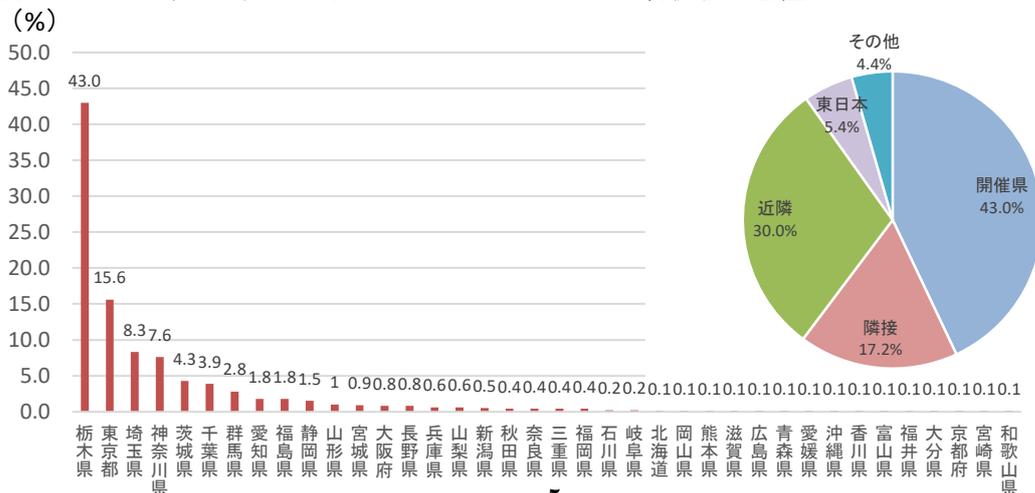


出所)特定非営利活動法人ジャパンカップサイクルロードレース協会「令和元年度競輪補助事業完了報告」より作成

観戦者数は開催地居住者と県外居住者が同程度のため、宿泊比率も4割強となっている。

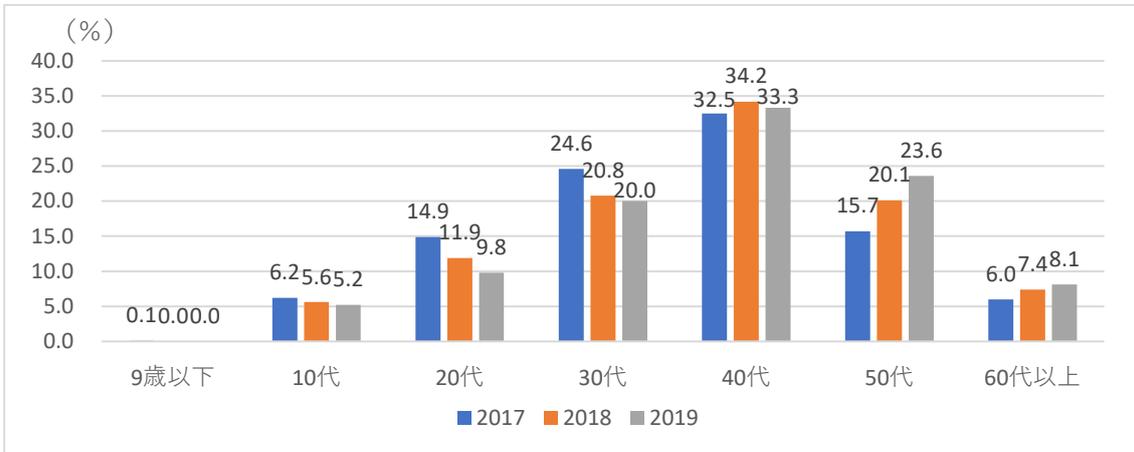
ファン属性の詳細までは不明であるが、県外からはコアなファンが、県内(開催県)ではライトな関心層が多く集まっているものと考えられる。隣接県、近接県からの来訪も多い。これら以外の遠方からの観戦は少数ではあるが、例年、一定数は確認できており、熱心なファン層の存在を示唆する。年齢構成は平均40代前半で10代以下も多く、家族連れなどレジャーの一環として観戦している様子も窺える。

図表 6. 2019年 ジャパンカップサイクルロードレース 観戦者の居住地

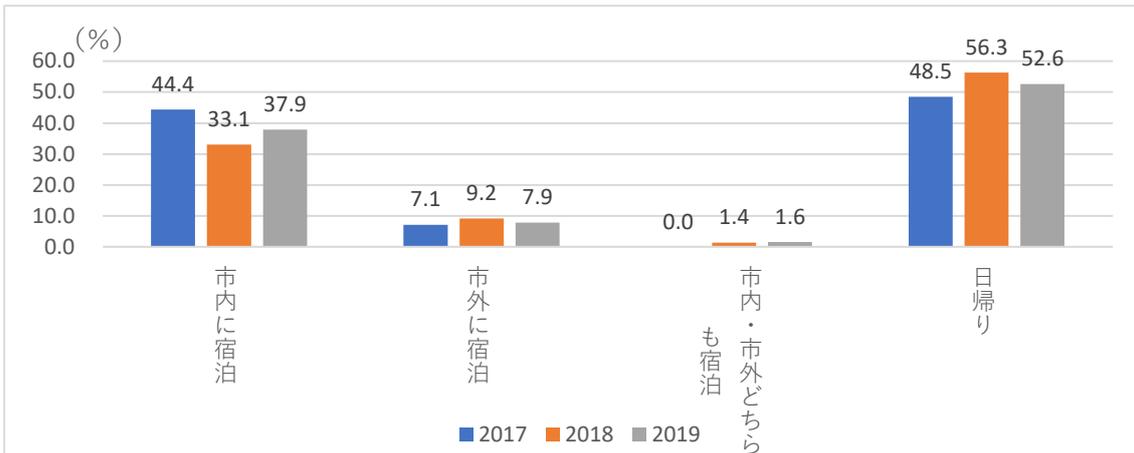


(つづき)

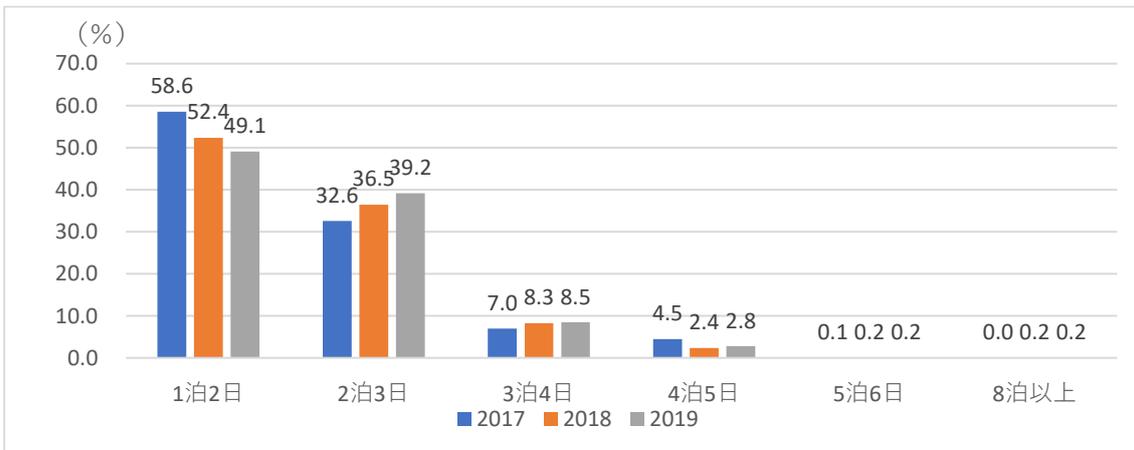
図表 7. 2019 年 ジャパンカップサイクルロードレース 観戦者の年齢構成



図表 8. 2019 年 ジャパンカップサイクルロードレース 観戦者の宿泊地

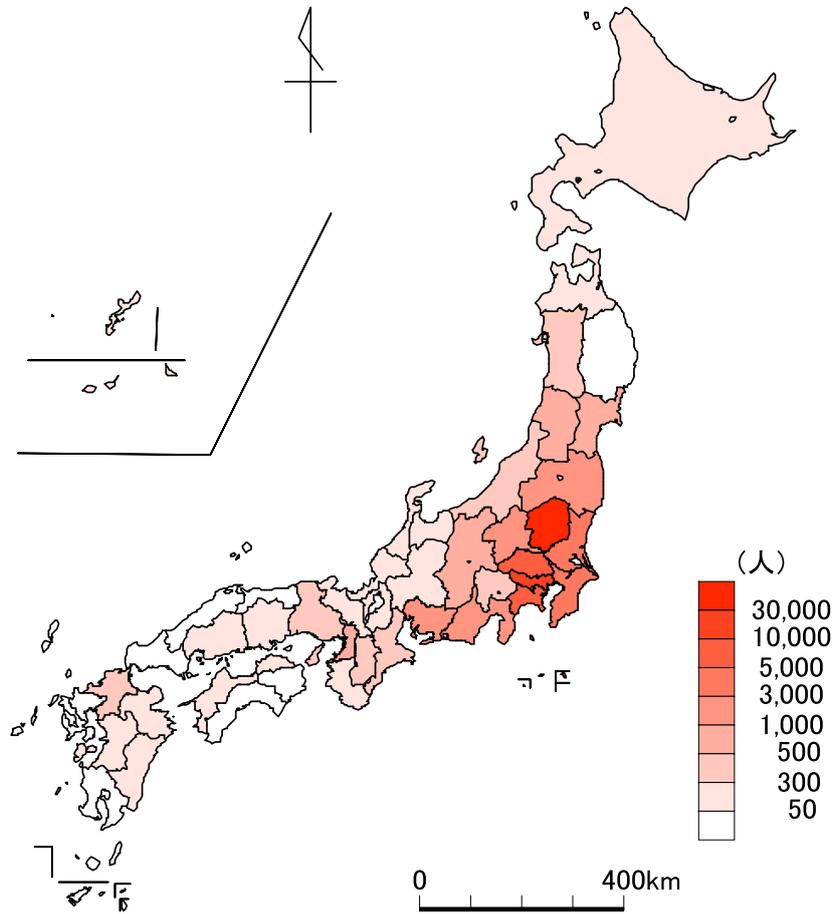


図表 9. 2019 年 ジャパンカップサイクルロードレース 観戦者の宿泊日数



出所) 上記 4 グラフは特定非営利活動法人ジャパンカップサイクルロードレース協会「令和元年度 競輪補助事業完了報告」より作成

(参考 1.) ジャパンカップサイクルロードレース 居住県別観客数の推計(2019年)

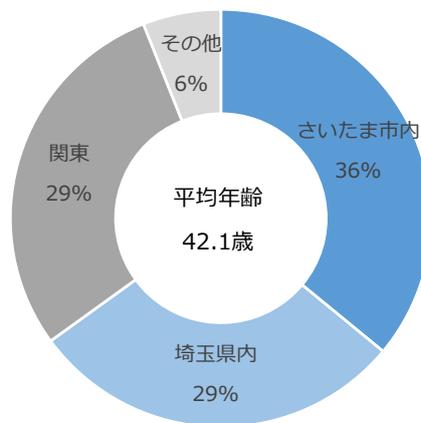


出所) 特定非営利活動法人ジャパンカップサイクルロードレース協会「令和元年度競輪補助事業完了報告」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」より推計して作成

なお、「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」(2013 年から 9 回にわたりさいたま市で開催中)でも、全体的な傾向はジャパンカップと同様であり、世界的なレースが地元・近隣で見られると、ライト層が気軽に観戦に訪れている姿がみてとれる。

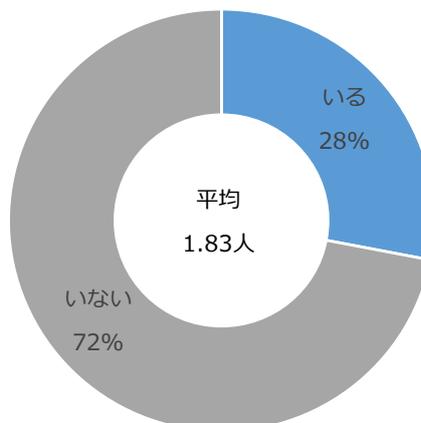
レースはさいたま市内を周回するクリテリウムのみだが、前日のイベント等と合わせ、近年は二日間で 10 万人超の観戦者数で推移している。埼玉県内への経済波及効果は約 8 億円と推計されている。

(参考 2.)さいたまクリテリウム(2013 年) 観戦者の居住地の内訳



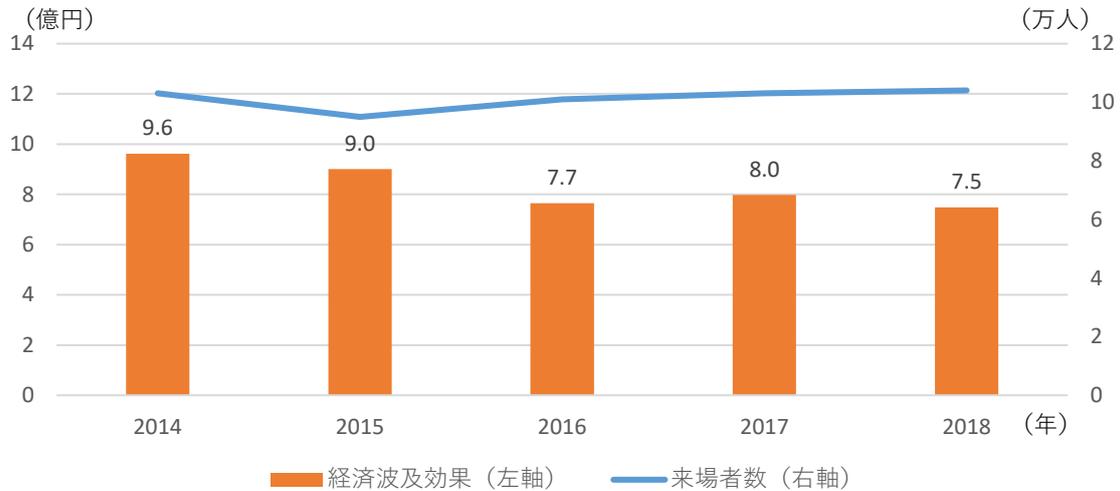
出所) 早稲田大学スポーツビジネス・マネジメント研究室「さいたまクリテリウム by ツール・ド・フランス 調査報告書」(2013 年)、p.4 より作成

(参考 3.)大会を観戦しない同伴者の有無



出所) 早稲田大学スポーツビジネス・マネジメント研究室「さいたまクリテリウム by ツール・ド・フランス 調査報告書」(2013 年)、p.5 より作成

(参考 4.)さいたまクリテリウム観戦者数および経済波及効果(県内)の推移



注) 経済波及効果は埼玉県内

来場者数は前日イベント等の参加者も含む。

出所)さいたま市記者発表資料(平成 31 年 4 月 15 日)より作成

4. 経済波及効果算定のための前提条件② マイナビ ツール・ド・九州2023の開催条件整理

(1) 関心層の試算

経済波及効果を算定するにあたっての前提条件として、マイナビ ツール・ド・九州2023の観戦者数を想定する。

ジャパンカップの集客実績からは、開催県の集客が最も多いこと、隣接する県、近接する県、広域と同心円状に集客数が落ちること、ただし遠方からも一定数の集客があることが分かる。

そこで、まず、前述のジャパンカップサイクルロードレース観戦者の居住地を開催県、隣接県、近隣県、その他東日本等とした地域区分を設定した。

図表 10. ジャパンカップサイクルロードレース 観戦者分析用の地域区分設定

地域区分	該当都道府県	備考
開催県	栃木県	開催地の県
隣接県	埼玉県、茨城県、群馬県、福島県	開催県に隣り合う県
近隣県	山形県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県、山梨県、新潟県	隣接県に隣り合う県
広域エリア	青森県、秋田県、岩手県、宮城県、愛知県、静岡県、石川県、福井県、富山県、岐阜県	岐阜県以東で以上に含まれない県(東日本方面)
その他エリア	上記以外のエリア	上記東日本に含まれない地域(九州を含む西日本方面と北海道・沖縄)

出所) (株)日本経済研究所 作成

上表の地域区分にもとづき、ジャパンカップサイクルロードレースの居住地別観客数を各居住県の人口で除したものを、都道府県別ジャパンカップ関心比率としてあらわしたのが次表である。

開催地に近いほど、単に関心を有するにとどまらず、実際に観戦に来る人が多い傾向にある。

図表 11. ジャパンカップサイクルロードレース 地域別関心比率

地域区分	関心比率(観客数・人口比率の各県平均)
開催県	0.870%
隣接県	0.049%
近隣県	0.028%
広域エリア	0.008%
その他エリア	0.003%

出所) 特定非営利活動法人ジャパンカップサイクルロードレース協会「令和元年度競輪補助事業完了報告」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」より作成

以上の結果を用いて、マイナビ ツール・ド・九州2023開催各県での関心層を試算する。

マイナビ ツール・ド・九州2023においても同様に、開催県、隣接県・近接県を中心としながら遠方からも観戦者が集まるものと仮定する。

そのための準備として、開催各県の地域区分を次表のとおり設定した。

図表 12. マイナビ ツール・ド・九州2023関心層検討のための地域区分設定

地域区分	ステージ			備考
	小倉・福岡	熊本阿蘇	大分	
開催県	福岡県	熊本県	大分県	開催地の県
隣接県	佐賀県、熊本県、大分県	福岡県、大分県、宮崎県、鹿児島県	福岡県、熊本県、宮崎県	開催県に隣り合う県
近隣県	山口県、長崎県、宮崎県、鹿児島県	山口県、佐賀県、長崎県	山口県、佐賀県、長崎県、鹿児島県	隣接県に隣り合う県
西日本エリア	滋賀県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県			滋賀県以西で以上に含まれない県(西日本方面)
その他エリア	東日本、北海道、沖縄県			上記西日本に含まれない県(東日本方面および北海道、沖縄県)

出所)(株)日本経済研究所 作成

上表の地域区分の元、先述の関心比率と各県人口から、各ステージ別に観戦しに来るであろう関心層の数を、下図のとおり計 12 万 4,000 人と想定した。

図表 13. マイナビ ツール・ド・九州2023観戦者数の想定



出所)(株)日本経済研究所 作成

(2) 観戦者等による消費額の検討

前記の想定数に消費単価を乗じて消費総額の規模を把握する。

消費単価については、開催県が統計調査として定期的に観光等による来県者の消費動向を把握していることがあるほか、国が統計調査によって把握した消費単価を公表しているため、これらを活用する。

図表 14. 観光目的客の宿泊有無別・居住地別の消費単価(2018 年)

単位:円/人・回

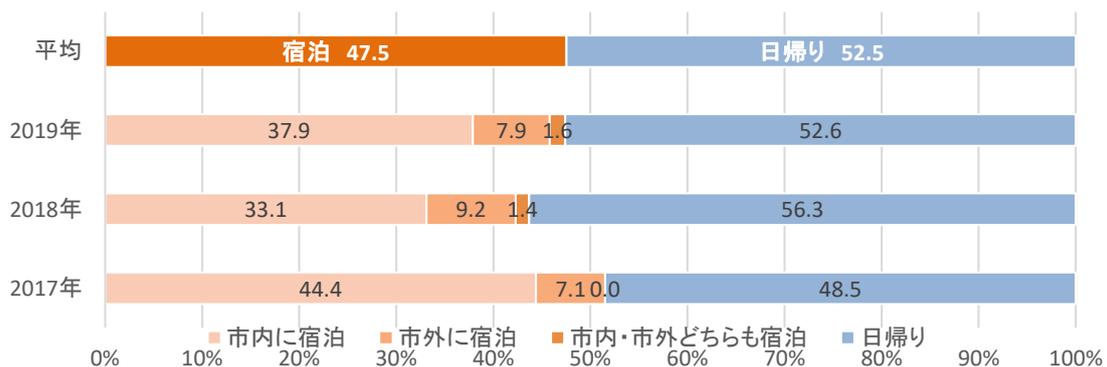
	福岡県	熊本県	大分県
宿泊客	(県内客) 17,296 (県外客) 39,511	23,468	40,648
日帰り客	(県内客) 5,922 (県外客) 14,006	4,562	5,882

出所) 福岡県「福岡県観光入込客推計調査」、大分県「大分県観光実態調査報告書」、熊本県「熊本県観光実統計表」各年版より作成

注) 2014 年～2018 年の平均値。ただし調査方法の変更により、熊本県のみ 2017 年・2018 年の平均値

宿泊客・日帰り客の想定については、ジャパンカップ観戦者の宿泊状況を踏まえ、直近 3 大会の平均値を用いて、宿泊比率 47.5%、日帰り比率 52.5%と想定する。

図表 15. ジャパンカップサイクルロードレース観戦者の宿泊場所



出所) 特定非営利活動法人ジャパンカップサイクルロードレース協会「令和元年度競輪補助事業完了報告」より作成

観光消費による費目内訳の割合については、観光庁資料を用いて下表のとおり想定した。

図表 16. 観光消費による費目内訳の割合の想定

	宿泊観戦者の 費目別消費割合	日帰り観戦者の 費目別消費割合
宿泊費	25.2%	—
交通費	22.6%	33.5%
飲食費	12.6%	14.8%
土産代	14.8%	27.7%
娯楽サービス等	24.8%	24.1%
計	100.0%	100.0%

出所)観光庁「2018年旅行・観光消費動向調査年報」より作成

5. マイナビ ツール・ド・九州2023 経済波及効果の検討

(1) 最終需要

1) 観光消費額

既にみた消費単価に、観光客数、ここではサイクルロードレースへの関心層の数、を乗じると、観光消費額を得る。その消費額を費目別消費割合の想定にしたがい整理した結果が下表である。

宿泊費、交通費、飲食費、土産代などにより、4ステージ合計での観光消費が約18.6億円となる。これを、観戦者の最終需要額とする。

図表 17. マイナビ ツール・ド・九州2023で期待される観光消費額

	小倉城クリテリウム、 福岡ステージ	熊本阿蘇 ステージ	大分 ステージ	合計
宿泊費	1億9,292万円	7,300万円	9,725万円	3億6,317万円
交通費	2億7,140万円	8,646万円	1億810万円	4億6,596万円
飲食費	1億4,005万円	4,581万円	5,790万円	2億4,376万円
土産代	1億9,429万円	6,010万円	7,421万円	3億2,860万円
娯楽サービス等	2億6,049万円	8,689万円	1億1,066万円	4億5,804万円
計	10億5,915万円	3億5,226万円	4億4,812万円	18億5,953万円

注)端数処理のため、内訳の計と合計が異なる場合がある。

出所)前掲表ほか、観光庁「2018年旅行・観光消費動向調査年報」より作成

2) 事業費

マイナビ ツール・ド・九州2023の開催にあたっては、本年1月時点で、チーム契約金等を除くと約8億5,000万円の事業費が見込まれていることから、これを大会開催に伴う最終需要額として用いる。

なお、事業費については、各ステージ別での整理はされていないことから、その総額を4レースで均等按分して、各ステージの事業費とした。

図表 18. マイナビ ツール・ド・九州2023事業費

主な費目		支出額
<ul style="list-style-type: none"> ● チケットینگ ● 共通広報費 ● スタッフユニフォーム ● 商品・リーダージャージ ● TV番組制作 ● 新聞 ● 漫画タイアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外メディア・国内BS ● ロードサイクル専門誌 ● スポンサー営業経費 ● 協賛商品 ● 応援グッズ(ハリセン) ● スポンサー掲出物 	1億8,000万円
<ul style="list-style-type: none"> ● 委託管理費(対象外分) ● 施設補償保険 ● 交通規制公告 ● 宿泊輸送(対象外分) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 通訳(対象外分) ● 興行ビザ取得 ● 航空運賃 ● 大会関係者弁当など 	1億1,100万円
<ul style="list-style-type: none"> ● 警備・設営 ● コロナ対策 ● 競技運営 	<ul style="list-style-type: none"> ● LIVE映像配信 ● 宿泊輸送(対象外分) ● 通訳(対象外分) 	5億5,700万円
支出計		8億4,900万円

出所) ツール・ド・九州 2023 実行委員会資料より一部の費用を除く等して作成

これら事業費について、各県の産業連関表の中分類相当の部門表に格付けしている。

図表 19. 各ステージ事業費の費目内訳例(熊本阿蘇ステージの例)

事業費	
繊維製品	200万円
その他の製造工業製品	405万円
情報通信	750万円
対事業所サービス	1億9,504万円
対個人サービス	375万円
計	2億1,235万円

注) 産業連関表部門分類により、費目および内訳額は各県で異なる。

出所) 熊本県「平成27年 熊本県産業連関表(37部門表)」より作成

(2) 経済波及効果

以上の前提条件を用い、各県が作成・公表している産業連関表(中分類表)によって経済波及効果を計測した。なお、間接効果は二次波及効果まで測定している。

結果、本稿で仮想的に設定した前提条件に基づくと、マイナビ ツール・ド・九州2023の開催により全4レースで約30億円の経済波及効果が計測された。

図表 20. マイナビ ツール・ド・九州2023の経済波及効果 まとめ

	経済波及効果		
		直接効果	間接効果
①小倉城クリテリウム ②福岡ステージ	15億5,000万円	10億円	5億5,000万円
③熊本阿蘇ステージ	6億8,800万円	4億4,300万円	2億4,400万円
④大分ステージ	7億2,700万円	5億400万円	2億2,400万円
計	29億6,500万円	19億4,700万円	10億1,800万円

注) 端数処理の都合上、内訳の計と合計が合わないことがある。

①および②は福岡県内、③は熊本県内、④は大分県内への波及効果である。

6. ディスカバー九州の概要

(1) 商品造成の背景

ツール・ド・九州の開催に合わせてサイクリングによる旅行商品「ディスカバー九州」の造成・販売が展開されている。サイクルツーリズムの推進を図り、サイクリング文化を醸成するとともに、これによる持続可能な地域の活性化を進めようとするものである。2023年2月から販売が開始された。

図表 21. ディスカバー九州概要

形態	サイクリング周遊型旅行商品
特徴	商品ごと設定されたコースを自転車でめぐるパッケージツアー
旅行地	九州各県、山口県および沖縄県の各地／周遊
ターゲット	国内および海外(台湾・香港・タイをはじめとしたアジア地域・欧米豪)のサイクルファン
実施主体	ディスカバー九州推進委員会(構成:九州・沖縄・山口各県、九州商工会議所連合会、九州経済連合会)
事務局	一般社団法人九州観光機構
コース設定(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・北部九州、南部九州周遊 ・沖縄一周 ・九州1周 ・各種テーマ別(島めぐり、産業遺産・温泉めぐり、自然・神話、火山、海、桜など)

出所)ディスカバー九州推進委員会ニュースリリース資料、ディスカバー九州 WEB ページ等より作成

(2) 商品概要

日帰り(所要3~4時間程度の38コース)から5~14日程度かかる長期型(10コース)まで、多様なルート、テーマなどのラインナップを揃える予定とされている。

全ての商品には地域に精通したサイクリングガイドが同行するほか、宿泊を伴う長期型コースではサポートカーも同行する。旅行代金は、日帰り8,800円、長距離型では30万円から、12日以上では70万円程度から想定されている。

実施主体が目標とする2023年度中の参加者数は、330名(海外150名、国内180名)となっている。

図表 22. ディスカバー九州の商品概要

対象市場	国内	海外	
		アジア (主に台湾・香港・タイ)	欧米豪
主なターゲット	ビギナー～中級者	中級者以上	中級者以上
目標参加者数	180 人	150 人	
滞在期間	日帰り(3～5 時間)	5～6 日	12～14 日
走行距離/日	5～30km	30～50km	50～70km
コース数	38 コース	5 コース	5 コース
販売予定価格	8,800 円～	25 万円～30 万円	72 万円～
料金に含まれるもの	サイクリングガイド料、レンタサイクル代、保険料等	サイクリングガイド料、宿泊代(前泊含む)、食事代(朝昼夜)、サポートカー代、保険料等	

出所) ディスカバー九州推進委員会ニュースリリース資料、ディスカバー九州 WEB ページ等より作成

図表 23. ディスカバー九州・中長距離コースの概要

コース名	日程	スタート	経由地	ゴール
島巡りコース	6 日間	福岡県	佐賀県 長崎県 熊本県	福岡県
産業遺産と温泉を巡るコース	7 日間	福岡県	大分県 熊本県	福岡県
ダイナミックな自然と神話の里コース	6 日間	熊本県	大分県	宮崎県
火山と海のコース	7 日間	宮崎県	鹿児島県	熊本県
沖縄本島一周サイクリング	5 日間	沖縄県	—	沖縄県
西海コース	13 日間	鹿児島県	熊本県 佐賀県 福岡県	長崎県
山海コース	11 日間	福岡県	大分県 熊本県	長崎県
桜コース	12 日間	山口県	福岡県 大分県 熊本県	宮崎県
北部九州コース	13 日間	山口県	大分県 熊本県 長崎県 佐賀県	福岡県
南部九州コース	13 日間	熊本県	宮崎県 鹿児島県	長崎県

出所) ディスカバー九州 WEB ページ等より作成

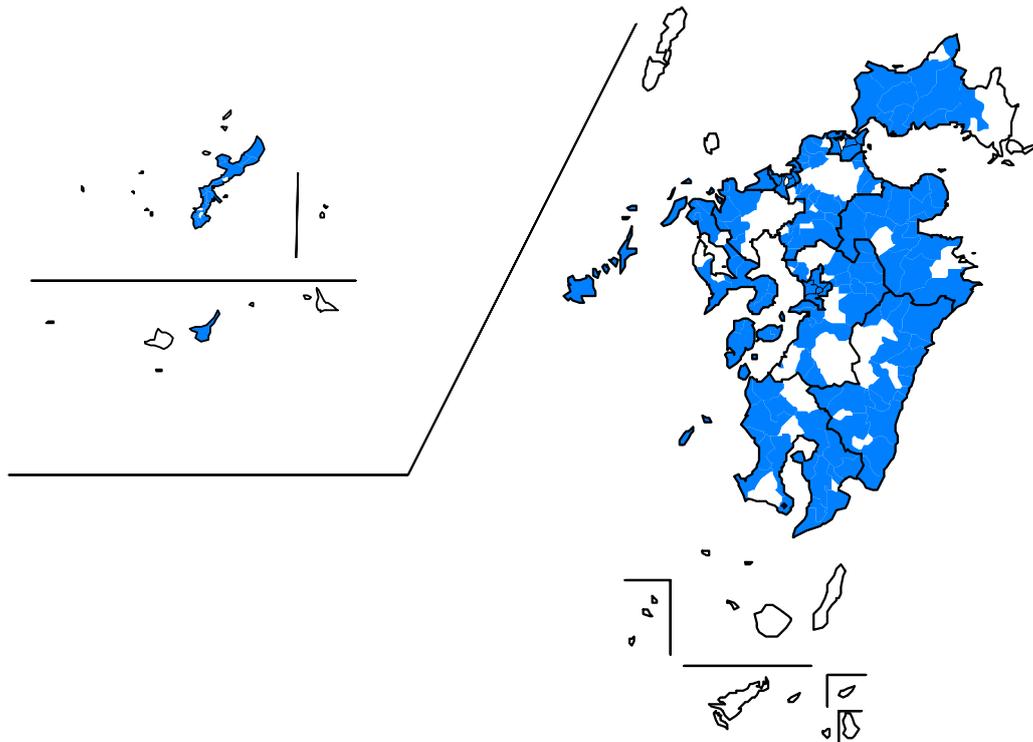
図表 24. ディスカバー九州・日帰りコースの概要

No.	商品名	対象県	スタート	中継地点	ゴール	距離 (km)	所要時間 (h)	価格 (円)
1	E-Bike堪能！萩城下町を一望する山頂ライド	山口県	萩市	萩市	萩市	22	2.5	4,400
2	瑠璃光寺史跡ライド	山口県	山口市	山口市	山口市	15	3.5	8,800
3	自然が創り出した造形美に触れる俵島ライド	山口県	長門市	長門市	長門市	49	3.5	8,800
4	海の上を走る角島大橋絶景ライド	山口県	山口県	下関市	下関市	24	3.5	8,800
5	船小屋鉱泉と八女茶を楽しむポタリングライド	福岡県	筑後市	八女市	筑後市	19	3.5	8,800
6	平尾台カルストを探访するダウンヒルライド	福岡県	北九州市	行橋市	行橋市	27	3.5	8,800
7	海と川の自然を巡る宗像直方ライド	福岡県	宗像市	直方市	直方市	39	3.5	8,800
8	小京都秋月を巡る歴史ライド	福岡県	朝倉市	朝倉市	朝倉市	19	3.5	8,800
9	蒙古襲来、いにしへの戦いの史跡を巡るライド	福岡県	福岡市	福岡市	福岡市	17	3.5	8,800
10	福岡博多歴史ライド	福岡県	福岡市	福岡市	福岡市	12	3.5	8,800
11	歴史と自然が調和する唐津ライド	佐賀県	唐津市	唐津市	唐津市	16	3.5	8,800
12	伊万里の絶景を楽しむハイク&ライド	佐賀県	伊万里市	伊万里市	伊万里市	42	3.5	8,800
13	有田焼の歴史を巡るライド	佐賀県	有田町	有田町	有田町	9	3.5	8,800
14	墓山の歴史を学ぶアカデミックライド	佐賀県	基山町	基山町	基山町	12	2.0	8,800
15	南蛮貿易と平和を学ぶ長崎歴史ライド	長崎県	長崎市	長崎市	長崎市	11	3.5	8,800
16	長崎の島々を一望できる平戸ネイチャーライド	長崎県	平戸市	平戸市	平戸市	43	3.5	8,800
17	多島美の絶景を眺める佐世保ライド	長崎県	佐々町	佐々町	佐々町	15	3.5	8,800
18	島原の侍文化と火山地帯の自然を満喫するアドベンチャーライド	長崎県	雲仙市	雲仙市	雲仙市	11	3.5	8,800
19	五島列島 潮風を感じる島めぐりライド	長崎県	五島市	五島市	五島市	10	3.0	8,800
20	文化と経済が交差する天領日田ライド	大分県	日田市	日田市	日田市	13	3.5	8,800
21	耶馬溪メイブルライド	大分県	中津市	中津市	中津市	37	3.5	8,800
22	佐伯周遊チャレンジライド	大分県	佐伯市	佐伯市	佐伯市	32	3.5	8,800
23	神話と歴史が交錯する岡城史跡ライド	大分県	竹田市	竹田市	竹田市	12	3.5	8,800
24	熊本城と城下町のまち割りライド	熊本県	熊本市	熊本市	熊本市	11	3.5	8,800
25	現代アートに触れる津奈木ライド	熊本県	津奈木町	津奈木町	津奈木町	19	3.5	8,800
26	球磨川の自然を感じるせせらぎライド	熊本県	人吉市	人吉市	人吉市	25	3.5	8,800
27	大自然の中に飛び込む阿蘇絶景ライド	熊本県	阿蘇市	阿蘇市	阿蘇市	20	3.5	11,000
28	自然の神秘と神話を巡る高千穂ライド	宮崎県	高千穂町	高千穂町	高千穂町	21	3.5	8,800
29	城下町に残る饂飩を探访する歴史ライド	宮崎県	日南市	日南市	日南市	6	3.5	8,800
30	オーシャンラインを走る日南ライド	宮崎県	宮崎市	宮崎市	宮崎市	32	3.5	8,800
31	延岡の中州を巡るリバーライド	宮崎県	延岡市	延岡市	延岡市	11	3.0	8,800
32	田園風景を守る田の神様を訪ねるライド	鹿児島県	南さつま市	南さつま市	南さつま市	18	3.5	8,800
33	火山が生んだ神秘的湖カルデラライド	鹿児島県	指宿市	指宿市	指宿市	41	3.5	8,800
34	薩摩藩島津の幕末歴史ライド	鹿児島県	鹿児島市	鹿児島市	鹿児島市	12	3.0	8,800
35	桜島の最高到達点へ！溶岩源めぐりライド	鹿児島県	鹿児島市	鹿児島市	鹿児島市	16	3.0	8,800
36	ゆっくりした時間が流れる今帰仁（なきじん）ライド	沖縄県	今帰仁村	今帰仁村	今帰仁村	10	3.5	8,800
37	古地図で巡る那覇歴史ライド	沖縄県	那覇市	※ルート記載なし		25	3.0	8,800
38	石垣の青い自然を感じるベダル&パドルライド	沖縄県	石垣市	※ルート記載なし		20	5.0	17,000

出所) ディスカバー九州 WEB ページ等より作成

日帰り・中長距離の各コースで訪れる市町村は九州・山口・沖縄のほぼ全域に渡る。

図表 25. ディスカバー九州の各コース周遊対象都市(着色部分)



出所) ディスカバー九州 WEB ページ等より作成

(3) 参加者による消費額の検討

国内旅行者向けの商品は日帰りコースであり、ほとんどの単価が 8,800 円に設定されていることから、これを日帰りコースの単価とおく。

海外旅行者向けの商品は滞在期間によってレンジが異なるが、中距離コースと長距離コースの中央値付近の 9 日間・50 万円を平均単価と想定する。

このときのディスカバー九州の想定消費額(売上額)は約 7,700 万円となる。

図表 26. ディスカバー九州の単価想定

	参加者数	想定単価	想定消費額
国内向け(日帰りコース)	180 人	8,800 円	158 万円
海外向け(中・長距離コース)	150 人	50 万円	7,500 万円
計	330 人	—	7,658 万円

7. ディスカバー九州 経済波及効果の検討

(1) 最終需要

1) 観光消費額

前掲の商品概要や参加者想定および観光庁「2018年旅行・観光消費動向調査年報」および観光庁「訪日外国人消費動向調査」(2018年)の宿泊費・飲食費の単価を利用し、下表のとおりディスカバー九州による観光消費額を算出した。

なお、各商品は九州内の各県、山口県および沖縄県の全9県を観光地・周遊地としており、総じて大きな偏りはないことから、ディスカバー九州による観光消費額の1/9を、各県におけるディスカバー九州の最終需要額とする。

図表 27. ディスカバー九州で期待される消費額の想定

コース	費目	観光消費額
国内向け(日帰りコース)	対個人向けサービス	158万円
海外向け(中・長距離コース)	宿泊費	945万円
	飲食費	722万円
	対個人向けサービス	5,832万円
計	—	7,658万円

注) 観光消費額を算出した後、産業連関表ベースで再整理

出所) 観光庁「2018年旅行・観光消費動向調査年報」および観光庁「訪日外国人消費動向調査(2018年)等より作成

(2) 経済波及効果

以上の前提条件を用い、各県が作成・公表している産業連関表(中分類表)によって経済波及効果を計測した。なお、間接効果は二次波及効果まで測定している。

結果、本稿で仮想的に設定した前提条件に基づけば、ディスカバー九州の実施により、総計で約1億1,400万円の経済波及効果が計測された。

図表 28. ディスカバー九州の経済波及効果 まとめ

	経済波及効果		
		直接効果	間接効果
福岡県	1,308 万円	851 万円	457 万円
熊本県	1,282 万円	851 万円	431 万円
大分県	1,185 万円	851 万円	334 万円
その他 計	7,624 万円	5,106 万円	2,519 万円
計	1 億 1,399 万円	7,658 万円	3,740 万円

注) 端数処理の都合上、内訳の計と合計が合わないことがある。

それぞれ各県内への波及効果である。

8. 経済波及効果まとめ

マイナビ ツール・ド・九州2023およびディスカバー九州の実施による経済波及効果は、総額約 31 億円となる。

図表 29. 経済波及効果まとめ

	合計	マイナビ ツール・ド・ ディスカバー九州九州2023	
福岡県	15 億 6,308 万円	15 億 5,000 万円	1,308 万円
熊本県	7 億 82 万円	6 億 8,800 万円	1,282 万円
大分県	7 億 3,885 万円	7 億 2,700 万円	1,185 万円
その他 計	7,624 万円	—	7,624 万円
計	30 億 7,899 万円	29 億 6,500 万円	1 億 1,399 万円

9. おわりに

マイナビ ツール・ド・九州2023及びディスカバー九州の実施による経済波及効果は、総額約 31 億円と推計された。現在、国内最大規模の同種イベントとなっている「ジャパンカップサイクルロードレース(2022 年 10 月開催)」の経済波及効果が約 26 億円(2022 年 12 月 宇都宮市が公表)と測定されていることから、ツール・ド・九州は日本最大級のサイクルロードレースになると考えられる。

来年度以降の開催に向けては、イベントの知名度を上げて集客力を強めることや、イベント関連商品の販売強化による消費単価の引き上げなどにより、地域への経済波及効果を高めることが期待される。知名度向上や地域の機運醸成のためには、福岡・熊本・大分以外の地域における開催にも期待がされる。

また、国際的なサイクルイベントは、外国人からも注目される可能性が高い。日本を訪れる外国人旅行者数が、コロナ前を上回る状況になってきており、インバウンド旅行者が集まるイベントになることも予想される。特にディスカバー九州は、外国人のサイクリスト(自転車愛好家)を中心に、付加価値の高い九州旅行を求めるニーズに応える旅行商品となるだろう。インバウンド旅行者に対応できる語学力のみならず、自転車のメンテナンスやロードレースに関する知識を有するガイド人材を養成することができれば、ツアーへの受入可能な人数を増やすことが可能となり、経済効果を上積みすることも可能になる。

世界から多くの人が集まるツール・ド・九州の開催、という大きなチャンスを、九州地域全体で活かしていくことが、地域への経済波及効果を拡大させるための鍵となる。

なお、本レポートの作成にあたり、一般社団法人ツール・ド・九州様、一般社団法人九州経済連合会様に多大なるご協力を頂きました。貴重な情報をご提供下さいましたことに、改めて感謝を申し上げます。

以 上



©Development Bank of Japan Inc.2023

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身の判断でなされますようお願いいたします。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権の許諾が必要です。当行までご連絡ください。著作権法の定めに従い、引用・転載・複製する際には、必ず、『出所:(株)日本政策投資銀行』と明記してください。

(お問い合わせ先)

株式会社日本政策投資銀行 九州支店 企画調査課 Tel 092-741-7737